

■大島浩 陸軍軍人。15年戦争中に駐独大使として、ナチスと連携、A級戦犯で終身刑。ドイツ人以上にドイツ的であった。

おおしまひろし

帝国大学始・1886＝ 母の実家、名古屋で、岐阜県恵那郡の旧岩村藩士出の陸軍軍人大島健一の長男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 3歳：

東京で、在日ドイツ人シンチガーの家庭に預けられ、ドイツ語教育とドイツ流の躰を受けて育つ。

大本教・・・1892＝ 6歳：愛日小学校入学。後に経団連会長も務める石坂泰三と同級であった。

日清戦争始・1894＝ 8歳：日清戦争に、山縣有朋の信任を受けた父が、第1軍の副官を務める。

日清戦争終・1895＝ 9歳：

子規句歌革新1898＝12歳：麹町の城北中学校に入学、陸軍幼年学校入学資格である1年次修了後、

Bushidou・・・1899＝13歳：_最年少で、東京陸軍地方幼年学校入学、同期の東條英機と、父親が反長州閥の陸軍軍人と共通し、親交、

教科書疑獄・1902＝16歳：父が参謀本部第4部長になる。_肋膜炎を患い、1年休学し、

日比谷公園・1903＝17歳：_東條より1年遅れて、陸軍士官学校に進み、

日露戦争始・1904＝18歳：父は、大本営を経て、以後、参謀一筋。

日露戦争終・1905＝19歳：_陸軍士官学校(18期恩賜)卒業。処世術に優れる東條に対し、学業は他の追随を許さず、

満鉄発足・・・1906＝20歳：少尉に昇進。

アヲキ 創刊・1908＝22歳：中尉に昇進。

明治天皇没・1912＝26歳：

大正政変・・・1913＝27歳：_ストレートで陸軍大学校に合格、3度目の挑戦でようやく合格した東條と、再び同期になる。

第一次大戦始1914＝28歳：第一次世界大戦で、重砲隊小隊長として、中国青島に初陣、ドイツを敵に戸惑うも、奮戦し、勲六等単光旭日章。この時、満鉄顧問で、志願してドイツ義勇軍に入ったフリードリッヒ・ハックが捕虜になる。

21ヶ条要求・1915＝29歳：陸軍大学校(27期)卒業。ハックが仲間の捕虜逃亡を手助けし、銃殺刑になるところ、
民本主義・・・1916＝30歳：第2次大隈内閣、続く、寺内内閣で陸軍大臣になっていた父により、釈放される。大尉に昇進し、重砲2聯隊中隊長から、参謀本部第4部戦史課に入り、斎藤常三郎大佐の薫陶を受ける。

ロシア革命・1917＝31歳：この年まで独身であったが、東京市長田尻次郎の娘豊子に一目ぼれし、結婚。参謀本部配属。

本格政党内閣1918＝32歳：

翌年にかけて、シベリア出張。
豊子との間に子はできなかったが、生涯大事にし、おしどり夫婦として評判になって行く。金にもクリーンで、賄賂は通じず、貯蓄もせず、部下に大判振舞いして使ってしまうような経済観念であった。

原敬首相暗殺1921＝35歳：*駐ドイツ大使館付武官補佐官として、第一次大戦後の莫大な賠償に苦しむドイツに、初めて赴任。ドイツ人教師のもとで、ローザ・ルクセンブルクの「ロシア革命」、カール・リープクネヒト「手紙」を研究。上司武官の後任になった東條は、大島と対話後、永田鉄山らと、バーデン・バーデンで、国家大改造の密談。

水平社結成・1922＝36歳：ドイツは、窮地を脱するべく、ソ連と、賠償放棄の見返りに軍事技術を提供する条約を締結。少佐に昇進。帰国した東條が陸軍教官に就任したのとあわせるように、

関東大震災・1923＝37歳：_駐オーストリア公使館兼ハンガリー公使館付武官に抜擢され、のちに、ヒトラーと親交する因となるオーストリア訛りのドイツ語を習得、雇用人の中から協力者をつくって、アメリカ陸軍の暗号表の写真を入手。新聞の「ミュンヘン裁判」特集記事で、人物ヒトラーに感銘を受け、帰国するや、東條に、ヒトラー談義。

護憲三派派勝1924＝38歳：野戦砲兵第8連隊付き、

治安維持法・1925＝39歳：同大隊長、

円本時代始・1926＝40歳：中佐に昇進。陸軍砲兵学校教官兼海軍砲術学校教官、

海軍軍縮条約1930＝44歳：大佐に昇進。姫路の野砲第10連隊長に就任、青年たちと親しくなり、生涯親交。

満州事変・・・1931＝45歳：*陸軍の頭脳集団、参謀本部第1部第3課長に栄転、同時に、東條が参謀本部編成課長になる。

国際連盟脱退1933＝47歳：ドイツで国家社会主義ドイツ労働者党(ナチス党)が政権につくと、英米派の外務省との主導権争いから、
帝人疑獄事件1934＝48歳：_駐ドイツ大使館付武官に派遣される。ヒトラー排除計画が発覚するなか、かつて、父が命を救い、大島が預けられたシンチンガーとともに会社をつくっていたフリードリッヒ・ハックが現れ、その手引きで、

芥川直木賞始1935＝49歳：少将に昇進。_ナチス党外交部リップントロップと初会談、同じ頃、対ソ戦での電撃戦の考案者ハインツ・グデーリアンと会い、以後、総統ヒトラーと非公式に会うようになり、信頼を勝ち得て行くが、リップントロップとの日独連携交渉がソ連の諜報機関に傍受され、両国の外務省を無視して進めてきたことが、
二二六事件・1936＝50歳：_イギリス紙に暴露されて、面目を失墜。外務省欧亞局長東郷茂徳は激怒するが、新外相有田八郎が日独連携案に回って、ようやく、日独防共協定の締結となる。ソ連の猛反発に、

日中戦争始・1937＝51歳：外務省が、対英親善を図るべく駐英大使にした吉田茂に、直接、説得に行くもかなわなかったが、駐ドイツ大使に東郷茂徳したもの、ナチ政権に嫌われ、大使を無視して、親友リップントロップと会談、

健保+総動員 1938＝52歳：中將に昇進。リップントロップが外相になり、ヒトラーが熱狂的歓迎を受けて、独奥併合が実現するなか、
第二次大戦始1939＝53歳：_ドイツの独ソ不可侵条約締結により、平沼内閣が総辞職。帰朝を命ぜられ、抗議の辞職も束の間、

大政翼賛会・1940＝54歳：後任に来栖三郎が任命された後、日独伊三国軍事同盟が締結、松岡洋右外相官邸で開かれた祝賀会で、一気に覇権を握ることになった東條英機から、その労をねぎらわれる。紀元2600年には、ヒトラーが日本大使館に訪れて賀しており、これらの功績と、ヒトラーからの強い要望で、特命全權駐独大使に再任され、

日米開戦・・・1941＝55歳：_着任。メディア露出度が高く、ベルリンで最も知られた外交官になっただけでなく、ヒトラー側近扱いにまでなり、ベルリン来訪の松岡外相とヒトラーの会談に出席、ドイツの諜報機関にも深く関わって、独ソ戦の情報を掴むと、ソ連打倒のチャンスと参謀本部に打電するも、曲解され、外務省に握りつぶされ、結果として、アメリカの参戦を招く。ドイツにとっては、功績であるとして、ヒトラーから、ドイツ勲章十字章。以後、ますます親独的になり、東條内閣成立後は、彼を支える意味もあり、

・・・1942＝56歳：ミッドウェー海戦敗退における日本の、スターリングラード戦敗退におけるドイツの劣勢への転換後も、

創価学会検挙1943＝57歳：対ソ戦に備え、軍事使節団を率いて、レニングラードを訪問、ドイツ戦車の凄さを知り、のち一式購入。
年金+総武装 1944＝58歳：ドイツ軍を救うべく、米英のノルマンディー上陸作戦に、攪乱電報で時間かせぎ。_ヒトラーが九死に一生の暗殺事件の容疑者が情報部の友人だったことに衝撃、庇護者東條内閣が崩壊後は、後に引けなくなり、

敗戦・・・1945＝59歳：*ドイツ軍のためにもと、さまざまな工夫をした戦況報告の暗号電報を日本政府に送り続けるが、全て連合国側に解読され、英米の作戦遂行に活用される。赤軍がベルリンに迫ると、ヒトラーから感激の最後の別れ、再起を図るよう促され、一部の高官らと共にドイツ南部の温泉地バート・ガスタインに避難。ソ連の日本参戦を遅らすための最後の電報後、ドイツは敗戦、連合国によって身柄を拘束されるも、ソ連軍に引き渡されて公開絞首刑になることは免れ、アメリカに送られ、尋問には誰もが黙秘、そこで敗戦となり、日本に送還。到着と同時に連合軍に身柄を拘束され、A級戦犯として起訴され、収監所で東條に再会、

新憲法公布・1946＝60歳：父も公職追放になり、翌年、死去。_おそらく情報戦で大きな利益を得たアメリカの謝意と口封じで、
極東裁判決・1948＝62歳：_判事による投票の結果、1票差で絞首刑を免れ、終身刑。親友の東條が絞首刑後は、すっかりやつれ、

三大事件・・・1949＝63歳：

独立回復・・・1951＝65歳：

55年体制始・1955＝69歳：_減刑されて仮釈放。神奈川県茅ヶ崎市に隠遁、以後、自民党から、国政選挙への立候補を度々要請されたが、断り続け、著作や講演の依頼にも頑として応ぜず、公的な場所に現れることも一切せず、

インスタント・1958＝72歳：

安保闘争・・・1960＝74歳：

大学紛争始・1965＝79歳：この頃には、政治家広田弘毅が死刑となったことに、'申し訳ない気がする'と言っていたらしいが、

美濃部都知事1967＝81歳：

ケアンズ ール事件1975＝89歳：回顧録も手記も一切遺さず、_没した。

Wikipedia, 中川雅善「東條英機の親友 駐独大使 大島浩 闇に葬られた外交情報戦のエキスパート」,